

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 29 日現在

機関番号：14601

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24600010

研究課題名(和文) 東アジアの保育における絵本環境に関する国際比較研究

研究課題名(英文) An International Comparative Study of the Picture Book Environment of Kindergartens In East Asia.

研究代表者

横山 真貴子 (YOKOYAMA, MAKIKO)

奈良教育大学・教育学部・教授

研究者番号：60346301

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、21世紀を生きる子どもたちがグローバル化に対応する力を身につけるためには「読書」が有効であると考え、すべての子どもが絵本と出会う環境を整備するために、東アジア(日本・韓国・香港・台湾)の保育における絵本環境を「理念・施策」と「実践」の2側面から比較文化的に描き出した。その上で、子どもにとって望ましい絵本環境を整備するために必要な絵本を捉える視点として、(a)芸術、(b)伝統文化、(c)表現、(d)コミュニケーション、(e)言葉を育む教材の5点を提示した。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is describe the picture book environment of Kindergartens in East Asia in order to get clue to nurture a zest for living in the globalization of society. In Japan, Korea, Taiwan, and Hong Kong, 5-year-olds' picture book environments of kindergartens were investigated from the viewpoints both of 'philosophy and policy' and of 'practice'. From three viewpoints, which are 'Nation or Region', 'Kindergarten', and 'Teacher', data were collected. These data were analyzed both comprehensively and cross-culturally. I proposed five viewpoints in constructing of picture book environment; (a) Art, (b) Traditional Culture, (c) Expression, (d) Communication, (e) Teaching Material of growing language.

研究分野：保育学

キーワード：絵本 東アジア 保育 環境

1. 研究開始当初の背景

(1) グローバル化に対応する力の育成：読書の有効性

グローバル化の進展の下、教育は歴史的転換点に立たされている。「知識基盤社会」「多文化共生社会」「リスク・格差社会」「成熟した市民社会」等への対応を迫られ(日本学術会議,2010)、21世紀を生きる子どもたちの前には、これらの課題が屹立している。こうした課題を克服する方策の1つが「読書」である。読書は、知識や教養の習得を可能にし(知識基盤社会への対応)、「よりよく生きる力」(成熟した市民社会への対応)を育む。

(2) 保育の場がつくる読書の基盤：絵本との出会い

子どもが最初に出会う本は「絵本」である。日本では2000年の「子ども読書年」以来、乳児期早期からの絵本との出会いが一般的となっている(横山,2006)。しかし、家庭では絵本との出会いの機会を持っていない子どももいる。そうした子どもに絵本との出会いを保障できる(リスク・格差社会への対応)最後の砦が、保育の場である。

(3) グローバルな視点から、子どもと絵本の出会いを捉える：東アジアへの着目

筆者は、日本での絵本と子どもの育ちに関わる研究を重ねてきた。日本で明らかにしてきた「子どもと絵本のかかわり」や「絵本環境」は、日本固有のものなのか。学術研究のグローバル化も求められる中、国際比較による検討が求められる。特に歴史・文化において日本と比較的共通性の高い基盤を持つ東アジアに着目し(日本学術会議,2010;ベネッセ,2011)、グローバル化に対応する力を育む絵本環境を構想することが求められる。

2. 研究の目的

本研究は、21世紀を生きる子どもたちがグローバル化に対応する力を身につけるためには「読書」が有効であると考え、すべての子どもが絵本と出会う環境を整備するために、東アジア(日本・韓国・香港・台湾)の保育における絵本環境を比較文化的に描き出すことを目的とする。具体的には、絵本環境を「理念・施策」(保育全般・絵本)と「実践」(物理的環境・人的環境)の2側面から捉え、(a)国・地域、(b)園、(c)保育者の3つのレベルから以下の3点を明らかにしていく。

東アジア地域に共通する絵本環境の特徴

各国・地域に固有の絵本環境の特徴

子どもにとって望ましい絵本環境

3. 研究の方法

(1) 対象

東アジア4地域(日本・韓国・香港・台湾)の幼稚園の最終学年である5歳児クラスの絵本環境。

(2) 絵本環境の観点

園の絵本環境を「理念・施策」(保育全般・絵本)と「実践」(物理的環境・人的環境)の2

側面から調査した。その際、表1に示したように、(a)国・地域、(b)園、(c)保育者の3つのレベルから検討した。

表1 本研究における絵本環境の観点

		(a)国・地域	(b)幼稚園	(c)保育者
理念・施策	保育全般 絵本	国・地域の基準(例:幼稚園教育要領)	園の基準(例:教育課程)	保育観
		読書(絵本)をめぐるとの法令・施策等	読書(絵本)をめぐるとの方針等	絵本観
実践	物理的環境(絵本)	出版状況 図書館	絵本の部屋等(図書室)	保育室・ 絵本コーナー
	人的環境(保育者)	本にかかわる資格	絵本の貸出	読み聞かせ

(3) 各国の絵本環境の調査方法

3つのレベルにおける調査

(a) 国・地域レベル：文献・資料による調査を実施した。「理念・施策」の保育全般に関しては、各国・地域のナショナル・カリキュラムを中心に、幼児教育の基準と特色をまとめた。絵本に関しては、絵本・読書関連の法令・施策を概括し、各国・地域の教育における「絵本」の位置づけを明らかにした。「実践」に関しては、文献・資料の調査に加え、(b)で対象とする園の近隣の書店、図書館の実地調査を実施した。

(b) 園レベル：日本では、筆者の所属大学附属幼稚園を対象とした。他国・地域に関しては、各地域の研究協力者に対象園の選定を依頼した。「理念・施策」に関しては「教育課程」や「絵本にかかわる教育方針」を資料や園長へのインタビューから明らかにした。「実践」については園の実践を観察した。

(c) 保育者レベル：「理念・施策」に関しては、原則として5歳児の担当保育者に「保育観」「絵本観」についてインタビューを行った。「実践」については、園環境、及び子どもが絵本とかかわる行動を観察した。日本では、週1回、登園から降園までの観察を1年間行い、保育室・絵本コーナーの写真撮影、及び子どもが絵本とかかわる場面のビデオ録画を行った。他国・地域においては、園環境の写真撮影、及び保育者が子どもに絵本を読む活動等の場面観察を行った。

分析

上記調査から得られたデータを、各国ごと各項目で分析し、それぞれをまとめた後、国際比較を行った。

シンポジウムの開催

最終年度には、韓国・台湾・中国の絵本研究者を招聘し(韓国:大竹聖美氏、台湾:游珮芸氏、中国:成實朋子氏)、シンポジウム「東アジアの絵本から保育の未来をひらく~韓国・台湾・中国の絵本の今と、保育のこれから~」を開催し、研究成果を社会に発信した(2016年3月29日)。

4. 研究成果

ここでは、3つのレベルから実施した分析

結果を、各国の保育・幼児教育の施策の動向、各国の絵本事情、各国の保育・幼児教育における絵本の位置づけの3点からまとめ、国・地域別にその特徴を示していく。

その上で、東アジアに共通な絵本環境の特徴、及び各国・地域に固有な特徴についてまとめ、子どもにとって望ましい絵本環境を構成するための絵本の捉え方を提案する。

#### (1) 日本

##### 保育・幼児教育の施策の動向

2015年4月施行の「子ども・子育て支援新制度」の下、「幼保連携型認定こども園」の認可・指導監督が内閣府に一本化され、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」が策定された。しかし、幼稚園(3～5歳児、「幼稚園教育要領」、文部科学省)と保育所(0～5歳児、「保育所保育指針」、厚生労働省)の二元化は依然として残り、現在、上記こども園を加えて、3種類の施設が併存する状況にある。ただし、「幼保連携型こども園」において、カリキュラム・施設が一元化されたことは、幼保の統合に向けての大きな一歩を踏み出したと言える。

##### 絵本事情

日本は世界の中でも、有数の絵本文化を誇る(玉置,2013)。絵巻物を源と考えれば、絵本の歴史は長く、奈良時代まで遡ることができる。現在では、絵本先進国の欧米の絵本の翻訳だけではなく、日本の作家による出版も質量ともに優れている点が特徴である。特に近年では、物語、科学絵本の他にも、オノマトペ、デザイン、写真、しかけなど、赤ちゃんから大人まで楽しめる質の高い絵本がバリエーション豊富に出版されている。

##### 保育・幼児教育における絵本の位置づけ

(a)ナショナル・カリキュラム:「幼稚園教育要領」(2008)では、保育内容として「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」の5領域が示されている。絵本は、この内「言葉」の領域に記述が見られる。「絵本」に「親しむこと」「先生や友達と心を通わせたり(ねらい)」「想像する楽しさ」(内容)を味わうことで、「豊かなイメージ」や「言葉に対する感覚」を養う(内容の取り扱い)ことが目指されている。このように日本では、絵本は、人間関係を深め、想像・イメージする力や言語感覚を養う重要な教材として取り上げられている。

(b)保育実践:観察対象園では、保育室に絵本コーナーが設置され、クラスで保育者が子どもたちに読み聞かせた絵本を含め、本箱に絵本が並べられていた。子どもたちは自由に絵本を手に取り、活動と活動の合間や降園前など、1人で、また友達と一緒にみている。本箱の絵本は、毎月、季節に応じた絵本や子どもの興味に即した絵本に入れ替えられた。

園の方針において、また保育者個人も、絵本を重要な保育教材と捉えていた。子どもの想像力を高め(物語絵本)、現実を捉える(科学絵本)など、世界を広げるものであること、

子ども同士が共通のイメージを持ってつながり、クラスが1つになる経験を持てることなどが絵本の意義として挙げられた。

#### (2) 韓国

##### 保育・幼児教育の施策の動向

近年、急激な改革が推進され、経済支援とカリキュラムの幼保一元化が進められている。経済支援では、教育・保育費全面無償が、2012年3月から満5歳児に、2013年3月からは3～4歳児に拡大され、すべての3～5歳児に対して国が全面無償支援を行っている。またオリニジップ(保育所)在園の満0～2歳児に対しても2012年3月から全額支援が開始されている。幼稚園やオリニジップを利用していない0～5歳児にも、2013年3月からは、養育手当が支給されている。

カリキュラムについては、韓国ではこれまで、幼稚園は「幼稚園教育課程」、オリニジップは「標準保育課程」を基にしてきたが、幼保共通の「ヌリ課程」を制定し、2013年3月には3～5歳の幼児すべてにおいて適用が開始された。制度、施設の統合に先んじて、カリキュラムの一元化を実現させ、子どもの発達連続性の観点から、幼保の保育内容の整合を達成している。

##### 絵本事情

韓国の絵本は1990年代に大きな質的転換期を迎え(李億培,2005)、「元気で多様な楽しさと、豊かな表現」が「暮らし(生活)」と「伝統」の2つの観点から高い評価を受けた(絵本学会,2005)。「暮らし(生活)」について、松居直(2005)は、韓国絵本には「暮らしが息づく」「生活実感」があると評価している。名節(祝日)の行事、伝統料理といった暮らしの風習を生き生きと描いた絵本が多いのが特徴である(例:『ソリちゃんのチュソク』イ・オクベ作)。「伝統」では、先の「暮らし」の中に描かれる「伝統」に加え、表現方法としても伝統的な「民画」の影響を強く受けながら、新たな絵本の製作が試みられている(例:『きこりとトラにいさま』イ・ナミ作)。こうした「暮らし」や「伝統」が「ユーモアと誇張」とともに描かれている(例:『せかいいちつよいおんどり』イ・オクベ作)のが、韓国絵本の1つの特徴である。

一方、日本・韓国・台湾の3国の絵本の内容を比較した林・中西・濱田(2011)は、絵本には「その国の子どもに託した希望が凝縮されている」とし、韓国の絵本には、子どもの「規範性」の育ちを望む「子どもの育成の指針」としての意味合いがあると述べている。「暮らし」や「伝統」の中には、道徳的・規範的な教えが盛り込まれやすいともいえる。

##### 保育・幼児教育における絵本の位置づけ

(a)ナショナル・カリキュラム:「ヌリ課程」では、5つの領域「身体運動・健康」「意思疎通」「社会的関係」「芸術経験」「自然探求」を定め、領域別の「目標」とともに、年齢別の「内容(内容体系・細部内容)」を定めている。

「本（絵本）」は「意思疎通」に含まれ、その「目標」は「日常生活に必要な意思疎通能力と正しい言語使用習慣を育てる。1. 他人の言葉を注意深く聞く態度と理解する能力を育てる。2. 自分の考えたことと感じたことを話す能力を育てる。3. 文字と本に親しむ経験を通じて、文字の形を認識して、読むことに興味を持つ。4. 言葉と文字の関係を知って、自分の考え、感覚、経験を文字で表現することに興味を持つ」とされている。これを見る限り「本」は、「文字」と「読む」こととの関連でのみ取り上げられている。日本のように「言語」を感性・情緒との関連から捉える視点は見られない。

上記4つの「目標」は「聞く」「話す」「読む」「書く」の内容範疇に対応する。「本」は「読む」に含まれる。その「内容」には「読みに興味を持つ」「本を読むことに興味を持つ」の2つがあり、「本」は後者に含まれる。その年齢別細部内容を Table 1 にまとめた。Table 1 にあるように、「ヌリ課程」では「本」は主に認知的発達側面から取り上げられている。

Table 1 「本を読むことに興味を持つ」の年齢別細部内容

3歳	本を見ることを楽しみ、大切に扱う 本の絵を手がかりに内容を理解する
4歳	本に興味を持つ 本の絵を手がかりに内容を推察する
5歳	気がかりなことを本で探してみる 本の絵を手がかりに内容を理解する

(b) 保育実践：梨花女子大学乳幼児教育研究所（2012/8/28）、及び延世大学子どもの発達研究所（2013/7/4）の計2カ所の大学校附属研究所内の保育施設を視察した。

両者の施設に共通して特徴的だったのは、各保育室内の「絵本コーナー」に加え、豊かな蔵書を備えた「絵本の部屋」が設置されていたことである。しかも両施設とも、玄関に入ってすぐの場所に設置されていた。来所した人の必ず目に入る場所である。保育における利用だけではなく、貸出など、保護者への利用喚起も活発であった。蔵書は、韓国の絵本以上に、日本を含め、欧米の翻訳絵本が多く置かれていた。両施設とも創作絵本だけではなく、科学絵本、言葉・文字の絵本など、多種多様な絵本が分類されて置かれていた。さらに部屋の中には、集団での読み聞かせコーナーも設けられていた。このように、どちらの園においても、保育における絵本の位置づけは非常に高いものだった。

### (3) 台湾

保育・幼児教育の施策の動向

台湾では、アジア初の幼保一元化が2012年1月から実施されている。「幼児教育とケア法（幼児教育及照顧法）」（2011年6月交付）に基づき、幼稚園と託児所を一体化した2～

6歳を対象とする「幼稚園」を教育部の管轄で設置し、教育とケアの一体的提供を本格化させている（翁, 2012）。この「幼託整合」により、管理、幼児教育の質、2～6歳の学習指導要領、指導・評価基準等の統一が達成されたことになる（幸, 2013）。ただし0～2歳未満は含まれていない。

### 絵本事情

台湾の絵本出版の歴史は浅く、その本格化は1980年代後半である（成實, 2007）。その背景には、日本による植民地統治等の歴史的事情がある。日本統治下では「国語」は日本語であったが、第2次世界大戦後中国語に戻る。そのため、絵本を含め初期の児童文学は、「国語」普及を目的として、政府主導で出版された。また、そもそも台湾には「picture books」（文と絵が融合した作品）に対応する語彙がなく、「圖書書」（絵が文字の内容を部分的に強調する illustrated books も含む）の語を用いてきた（游, 2007）。出版される本も海外の翻訳が中心であり、日本の絵本も数多く翻訳・出版されている。

1980年代からの日本絵本の受容の変遷を見ると、台湾の絵本観の変化がわかる。80年代は「知識絵本」、「リアリズム物語」、90年代前半は幼児教育に役立つ「遊び・学びの幼児絵本」が多いが、90年代後半になると「空想的物語」が最も多くなっている。教育的な読み物から、ファンタジーを楽しむものとして、絵本の位置づけが変化している。さらにこの時期には「圖書書」ではなく「繪本」の語が用いられるようになり、台湾の絵本発展史の大きな転換点といえる（張, 2007）。

### 保育・幼児教育における絵本の位置づけ

(a) ナショナル・カリキュラム：「幼稚園教保活動課程暫行大綱」は Figure 1 のように身体動作と健康、「認知」「国語」「社会」「美の意識」「情緒」の6領域からなる。

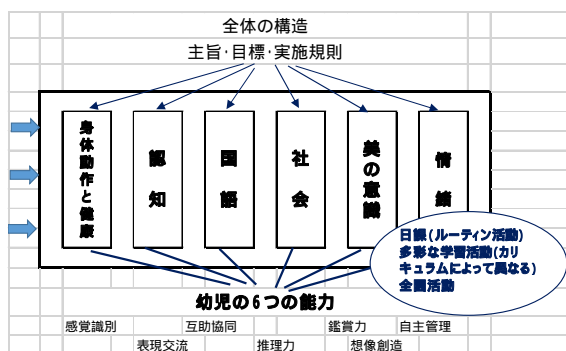


Figure 1 幼稚園教保活動課程の構造 (幸, 2013 より引用)

6つの領域にはそれぞれ、「課程目標」と2歳毎に「学習指標」が示され、「国語（語文）」では「理解」「表現」×「身体」「口語」「図像符号」「文字機能」の課程について「学習指標」が定められている。「本」は「表現」に含まれ、聞いたストーリーについて言葉で伝えること（語-2-6 回應敘事文本）と自らストーリーを作り出すこと（語-2-7 編創與演出敘事

本文)が目指されている。全般的に目標・指標は、認知・技能的な内容が設定されている。(b)保育実践：台中市の私立幼稚園3園(兒幼幼稚園ほか)及び公立幼稚園1園(公立小学校附設)の計4園(2016/2/15~16)を視察した。

3園の私立園では、いずれの園にも「絵本の部屋」が設けられ、貸出、絵本紹介など、保護者に絵本の重要性を訴える啓発が行われていた。ある園では、日本の絵本作家を招いてシンポジウムを開催するなど、絵本に関わる社会文化的な活動も行っていった。

蔵書は、台湾の作家による創作絵本よりも、日本、欧米の翻訳絵本が主であった。近年、日本の作家(宮西達也、長谷川義文など)の絵本が日本で出版後、早い時期に翻訳出版されており、新しい絵本も多く置かれていた。

いずれの園もコーナー保育が行われており、保育室には絵本コーナーが設置されていた。保育のテーマに関連する絵本が厳選されて面展示されているほか、絵本の読みを録音したCD等も設置され、子どもが1人で聞けるようになっていた。保育者によるクラス全体への読み聞かせも取り組まれていたが、読み終わると、絵本の一節を子供たちに唱和するように求めている。中国語は、発音の種類が多く、習得が難しいため、文字習得の第一歩として、文字と音を対応づけるために、唱和したり、絵本を見ながら音声を聞く活動が推奨されているとのことだった。その他、いずれの園も文字にかかわる活動が多く、絵日記的なものを子どもが書いて、クラスで発表したり、文字のワークブックがあるなど(公立園)文字習得への直接的、間接的な指導が積極的に行われていた。

#### (4) 香港

##### 保育・幼児教育の施策の動向

1997年に英国から中国に返還されるまでの150余年に渡る植民地統治時代、香港では独自の教育システムが構築されてきた。特に、植民地政府は香港人の教育に熱心ではなかったため、義務教育期間にあたる学校は、ほとんどが私立であり、就学前施設に至っては、全て私立である。また乳幼児がいる家庭では、外国人の住み込みメイドを雇うことが多く、施設で乳幼児の保育が必要な保護者は少数派である(大和,2012)。

2000年に出された「香港教育制度改革建議」において、幼保一元化(協調学前服務)が奨励され、2004年には、保育所(幼児センター)と幼稚園の整理統合が図られる。保育所が0~3歳、幼稚園は3~6歳を対象とし、保育と幼児教育の役割分担、及び対象年齢が明確化される(西村,2012)。なお幼児センターは、さらに育嬰園(0~2歳)と幼児園(2~3歳)に分けられる。2005年9月からは、保育所と幼稚園の機能を併せ持つ、0~6歳児を対象とする合同園(Kindergarten-cum-Child Care Centre)が設立される。しかし、実際は0~6歳までを対象とする合同園はほとんどなく、幼稚園の下に2~3歳児クラ

スを増設した園が大半となっている(有賀・水野・山田,2006;大和,2012)。

通常幼稚園は、半日クラスであり、午前、午後のクラスに分かれている。全日保育もあるが、人気の園は完全入れ替え制である。午前クラスの希望が圧倒的に多いが、それは午後、学習教室や英語教室に通うためである(大和,2012)。

2007年に幼稚園バウチャー制度が導入され、所得制限を設けず、就園年齢3~6歳の幼児のいる全ての家庭を対象に、授業料を一定配額配分し、自由に幼稚園を選択させている(西村,2012)。

##### 絵本事情

英国統治下にあった香港では、絵本は欧米のものが、中国語に翻訳されず英語のままで入っている。書店、図書館(香港中央図書館)においても、英語の絵本と中国語の絵本は、ほぼ半数ずつ並べられている。中国語の絵本は、日本の翻訳絵本や中国の絵本などであり、中国本土から入ってくる。香港独自の絵本はほとんどみられない。東京都の約半分ほどの広さの香港は、独自の絵本を出版・販売するには、市場があまりに小さい。独自に制作するよりも、既に絵本となって流通している定評のある作品を入れる方が手っ取り早くもある。

##### 保育・幼児教育における絵本の位置づけ

(a)ナショナル・カリキュラム：「學前教育課程指引」(2006)では、4つの発達目標「身体」「認知・言語」「感情・社会」「美感」と6つの学習範疇「身体的健康」「言語」「自己と社会」「早期算数」「科学技術」「芸術」が示されている。学習範疇には、さらに下位の範疇が挙げられ、それぞれに「学習目的」と「教學原則」が示されている。

本(絵本)は、「言語」(聞く・話す、読む、書く、第2言語(英語))の「読む」に記述が見られる。「読む」の学習目的は、「a. 読みの準備的な技術を習得する、b. 読むことの興味を育て、読む習慣を身に付ける、c. 物語を理解する、d. よく目にする単語や学習主題で目にすることの多い後を認識する、e. 読むことを通して学ぶ」の5つが挙げられている。指導原理としては、音読したり、本を読むことを子どもに促すことその他、選書の基準も示され、子どもの年齢や能力、経験に応じた質の高い絵本を与えることが明記されている。領域の構成には、芸術、美的なものも含まれるが、本は認知・言語的な領域に限定され、読みの技術の習得のための教材として取り上げられている。

(b)保育実践：中華基督教會望覺堂賢貞幼稚園(2016/2/29)1園を視察した。商業地域の中心部のビルの中にある幼稚園は、保育室も狭い。しかし、コーナー保育が行われており、絵本コーナーもあって、絵本が面展示されていた。小ホールには全園児のための絵本が、保育者用の図書と共に並べられたコーナーがあり、貸出も行われていた。

午前、午後のクラスに分かれ、活動の時間割が決められていた。文字を書く活動が多く取り入れられており、文字や算数のワークブックに取り組む時間もあつた。お話を聞く時間も毎日 10 分間設定されていた。読み、書きの技能を習得する小学校教育の準備教室的な色合いが強かつた。

(5) 4 カ国比較からみる保育における絵本環境

東アジアに共通の絵本環境の特徴

いずれの国・地域も、絵本で育てようとする資質・能力の比重は異なるものの、絵本を重要な保育教材と捉えていた。ナショナル・カリキュラム、各園の教育課程に絵本を位置づけ、園環境においても、保育室には絵本コーナーを設置し、ほとんどの園では絵本の部屋も設置されていた。また、5 歳児クラスにおいても、子どもが自分で読むだけでなく、保育者が子どもに読むものとして、絵本が位置づけられていた。

各国・地域に固有な特徴

(a)日本：言葉のリズムや言葉の表現、多様で豊かな絵本の世界を楽しむ、友達と絵本の世界を共有するなど、情動的な側面やコミュニケーションの側面が重視されていた。

(b)韓国：「本」は見ることを楽しむとともに、その内容を理解し（認知）、大切に扱う（道徳）側面に主眼が置かれていた。より小学校教育への接続を意識した内容であつた。

(c)台湾：「本」が「表現」として「理解」したことを「伝える」ことに力点が置かれていた。「本」との出会いを超えて、子ども自らがストーリーを作ることが目標に掲げられていた点が特徴的であつた。

(d)香港：読みの技能を高めるための教材として「本」が位置づけられ、選書を含め、音読など、具体的な指導方法が示されていた。

子どもにとって望ましい絵本環境

絵本環境を構成するもととなる、絵本を保育に取り入れる際の捉え方として、以下の 5 つの観点を提案した。

(a)芸術としての絵本：絵本は「言葉」の領域に置かれるが、テキストと絵による表現である。絵に着目した観点も不可欠であろう。日本以外の地域では「芸術」や「美」の領域が設定されていた。「豊かなイメージ」を育むためにも芸術の観点が必要だろう。

(b)伝統文化としての絵本：各国それぞれが絵本の歴史をもち、特色をもつ。絵本そのものがその国を知る伝統文化である。

(c)表現としての絵本：台湾では子ども自らがストーリーを作ることを目指していた。絵本は子どもの自己表現の媒体にもなる。造形や身体表現などの契機にもなる。「お話を語る喜び・楽しさ」といった視点から絵本の意義を見直すことも示唆される。

(d)コミュニケーションとしての絵本：韓国では絵本は「意思疎通」に含まれ、日本でも「心を通わす」ことが目指されている。絵本は人と人とをつなぐものでもある。

(e)言葉を育む教材としての絵本：絵本は、言語や認知発達を促す教材でもある。日本では、この観点を直接的には取り上げてきていないが、言葉が人と人とをつなぎ、思考のツールであることを鑑みれば、幼児教育と小学校教育との接続の観点からも重要な着目すべき観点となるだろう。

上記 5 点の観点を踏まえた絵本環境の構成が求められる。今後は、これらの観点を踏まえた、具体的な絵本環境の構成について、研究を進めていきたい。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 1 件)

横山真貴子・木村公美・竹内範子・掘越紀香 幼稚園の 5 歳児クラスにおける環境構成と保育者のあり方 奈良教育大学教育実践開発研究センター研究紀要, 第 22 号, 45-56.

[学会発表](計 5 件)

横山真貴子 保育における文字環境(4): 幼稚園 5 歳児 1 学期の文字とのかかわり 日本発達心理学会第 24 回大会 2013 年 3 月 17 日 明治学院大学(東京)

横山真貴子 東アジアの保育における絵本(1): 韓国の保育・幼児教育改革と絵本 日本乳幼児教育学会第 23 回大会 2013 年 11 月 24 日 千葉大学(千葉)

横山真貴子 東アジアの保育における絵本(2): 台湾の保育・幼児教育改革と絵本 日本発達心理学会第 26 回大会 2015 年 3 月 20 日 東京大学(東京)

Makiko Yokoyama "4-year-olds' Literacy Activities in the Japanese Public Kindergarten." The 16<sup>th</sup> PECERA Annual Conference in Sydney, 24<sup>th</sup> 26<sup>th</sup>, July, 2015, Macquarie University (Sydney, Australia).

横山真貴子 東アジアの保育における絵本(3): 日本・韓国・台湾の保育・幼児教育改革と絵本の比較 日本保育学会第 69 回大会 2016 年 5 月 8 日 東京学芸大学(東京)

[その他](計 1 件)

横山真貴子・大竹聖美・游珮芸・成實朋子 シンポジウム「東アジアの絵本から保育の未来をひらく～韓国・台湾・中国の絵本の今と、保育のこれから～」 2016 年 3 月 29 日 奈良教育大学(奈良)

## 6. 研究組織

(1) 研究代表者

横山 真貴子 (YOKOYAMA MAKIKO)  
奈良教育大学・教育学部・教授  
研究者番号：60346301